

ソーラーカーとソーラーバイシクルのレース「2026ワールド・グリーン・チャレンジ(WGC)」の最終日が11日、大潟村のソーラースポーツラインで行われた。ソーラーカーの3日間計25時間の周回数(1周6キロ)を競うソーラーカーラリー競技では、218周の工学院大ソーラーチーム(東京)が総合優勝に輝いた。

◇ ◇
組織委員会(会長・高橋浩人大潟村長)の主催。同競技では今回、クマ出没などを警戒して見通しの悪い場所はコースに設定しなかった。そのため、従来の1周25キロのコースから1周6キロのコースに変更された。WGCは9日から本戦を行い、ソーラーバイシクル競技は同日に終了した。

工学院大チームの島田琉海代表(機械システム工学科4年)は「終盤までどうなるか分からなかったが、優勝できてとてもうれしい。今後も車両の改良や

ソーラーカーラリー 大潟村

工学院大チーム総合優勝

エネルギーのマネジメントを勉強して頑張りたい」と語った。

ソーラーカーの車両コンセプトのプレゼンテーションなどの合計点で競う「グリーンフリートチャレンジ」では、海水由来のマグネシウムを利用した車両を走らせた玉川大学TSCP(東京)が優勝した。

一般社団法人循環社会推進協議会(仙台市、熊谷枝折代表理事)によると、玉川大学TSCPの車両は、海水から採取した水酸化マグネシウムで電極を作り発電させている。玉川大、東北大などと研究を進めてきた同協議会は、海水由来のマグネシウムを使って車両を走らせるのは世界初の取り組みだとして、公式に発表した。(阿部拓郎)

このほかの主な優勝は次の通り。

▽ソーラーバイシクル・マラソン①GRANZ(栃木)
▽ソーラーバイシクル・耐久ラリー①甲府工業高校専攻科創造工学科(山梨)

ソーラーカーラリー競技で総合優勝を果たした工学院大ソーラーチーム

